

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm>

平成27年11月(2015年)No 599

<随想>

一人暮らしになって想うこと 集い、語り合いの楽しさに救われる

妻に先立たれて早や一年半になろうとしています。存命中は家に誰か居て外から帰っても明かりが灯っていて、食事が用意されていて、そんな当たり前で空気のような存在だったものが、或る日から突然それが消えてしまったとき、心に何かぼっかり穴が空いたような気がしました。それが1年を過ぎると少しずつ穴が小さくなってきた感があります。高齢者にとって、孤独が一番いけません。誰かと話し合える機会を自ら積極的に作っていかないとほんとに淋しい人生になります。そういう意味で、OMCのような同じ趣味仲間と定期的に集い、語り合い、楽しみ合い、といった機会があることは何よりの幸せなことと思います。もっと自分のことは自分で出来る、という健康維持が前提となりますので、健康管理だけでは自己責任で果たしていかなければなりません。そのため週4日は公園へ散歩に出て軽い運動をするようにしています。しかし最近マンションの理事長の役目とか老人会設立準備会とか、日本アマチュア映像作家連盟の関連行事、書類作り、打合せなど、多忙な日々ゆえ、ゆっくりする時間がとれないのが現状ですが、考えてみれば、孤独感を一掃する天の与えた役割かもしれません。

幸いOMCの世話役さん達は、実によくやって頂いているので、私は唯皆さんと一緒に楽しんでいるだけで幸せモンと思っております。これからもどうぞよろしく願いいたします。

会長 合原一夫

11月例会のお知らせ

- 第2例会:第3木曜19日13時より研究会 15時10分より一般作品上映。
今月のテーマは脚本構成について作品例を用いて考え方の一端を披露。
全国コンテスト受賞のコツ等の話。テキスト等要五百円、講師合原氏。
- 通常例会:第4土曜28日18時より、いずれも大阪市立難波市民学習センター
(JR難波OCATビル4階)。朝夕冷え込んできました。風邪など召さぬようお互い
注意しましょう。同じ趣味仲間同志、楽しいひとときを過ごしましょう。

■第2例会を偶数月に開催変更

来年度から第2例会を偶数月に年間6回の開催となります。詳細は追ってお知らせします。

■予告（予定）：ミニ撮影会を来年2月に予定しています。東大阪の工場地帯で、モノ作りの現場をテーマに考えています。もう少し企画がまとまりましたらお知らせします。

■難波市民学習

センター「春まつり」参加決定

平成28年3月12日(土)13時～16時の「春まつり」にOMCも参加することが臨時世話役会で決まりました。「春まつり」は毎年行われていますが、今回初参加です。作品テーマは大阪市内の風物や行事、新作のみならず8ミリフィルム時代の旧作も歓迎。出品希望者は11月通常例会までに作品とコメント(30字以内)をご持参下さい。出品料は10分以内3000円程度、超過1分毎に300円程度。

■1月通常例会：恒例の新年会を例会場のすぐ上の階のレストランで5時頃から開催しますので、例会は第4土曜23日13時より第3研修室にて行います。その後総会を開き、夜の新年会に入ります。

大阪アマチュア映像祭は盛会

どうした 少ない会員の来場者

今年の大阪アマチュア映像祭は去る11月1日(日曜)大阪市立中央図書館5階大会議室にて行われました。OMCからは紙本氏「港町室津」、関氏「かげろい」、有村氏「季節は巡る奈良公園」、合原氏「北インド紀行・聖なる河」の4作品が出品されました。全8クラブから16作品が出品されましたが、今年作品は良い作品が多く好評

だったように思いました。

作品はDVDにして中央図書館に納入してありますので、地下1階映像コーナーで貸し出しています。アマチュアの作った作品が図書館に保存されるということは、実に素晴らしいことです。個人の作品は、その人亡くなられたら、ほとんど粗大ゴミ化しかねません。その点でどこかで存在しているということは有難いことです。

それにしてもこうした発表会に、OMC会員さんの姿が少ないのはどうしたわけでしょうか。よその発表会でも、できるだけ人の作品を観るという事は勉強になると思いますが、もっと映写会に出掛けませんか。

■新入会員のご紹介

稲田 拓さん 〒560-0003 豊中市東豊中町5-36-5 Tel&Fax 06-6854-1358

E-mail:hi_inada@mbr.nifty.com

(hi と inada の間に _ アンダーバーが入る) よろしくお願いいいたします。

■会員名簿の配布

例年通り今年も会員名簿を配布します。名簿をチェックされ記入漏れ、記入ミスがないかどうかチェックして下さい。ミスがあれば速やかに広報までご連絡ください。

・メールアドレスを持っていても記入されていない方、記入されていても間違っていてメール配信の例会ニュースが戻ってくる方が若干名います。

・メルアドは例会ニュースが出来次第送信しています。従って郵便物ニュースより早くお届けできます。

■合原会長のメールアドレス修正

(k-gohara@grape.plala.oe.jp)を削除する。替わって次の携帯アドレスを追加する。
Eisha8m5hard@softbank.ne.jp

10月通常例会レポート

秋たけなわの好季を迎えた24日(土)例会が難波市民学習センターで開催された。この日の出席者20名で作品数は10本でした。絶好の行楽シーズンを迎えて撮影旅行にでも出かけられたか、やや寂しい例会となりましたが、その分司会者のじっくりとした解説で進めることができました。

今月の司会は、進藤氏、映写係りに河合氏、録画係りに江村氏、受付係りに華岡、宮崎の両氏、掲示板係りに紙本氏、書記岡本(筆者)で進行しました。

■出席者：赤澤、有村、稲田、江村、岡本、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、高瀬、坪井、野田、華岡、前田、宮崎、森口、森下、吉村の20名でした。

■上映作品(講評は岡本世話役で作品はすべてBDです)

1. 大原祇園祭・花奪い神事

紙本 勝 11分20秒

滋賀県甲賀市甲賀町の大鳥神社で毎年7月23日～24日に行われている大原祇園祭りを取材された作品です。宵宮における灯籠のぶっつけあいと、本祭りにおける「花奪い」が祭りの名物です。九つの集落ごとに踊り子、花笠が宮入り、無病息災、五穀豊穰なぞの祈祷を受け、青竹で組まれた花笠を倒し、もみ合うようにして花を奪い合う神事です。花めがけて人が群がる様は迫力があります。その後ちまき撒きがあり、当たりを拾った人に酒樽がわたされます。これが終わると御輿と踊り子が宮から出て神聖なムードにもどりクライマックスを向かえます。花の奪い合いは迫力がありますが、ちまき撒きは迫力にかけるのが残念です。それにしてもめずらしい祭りを拝見しました。

2. みやこ姫よさこい

江村一郎 8分00秒

よさこい作品をづくりつづけている作者ですが、この作品はどこで撮影されたのか画面からは読み取れませんが、これは和歌山県御坊市の日高川の水辺公園で、毎年5月の初旬に行われているものです。当初は「いこらDEフェスティバル」だったものが2010年にこの名称となりました。みやこ姫とは藤原宮子との言い伝えがあります。道成寺に宮子姫像があるが、画面にでてくるのは案珍の塚だと思えます。みやこ姫の生誕を祝ってのお祭りで、よさこいチームの踊り子たちの様子や、水辺で遊ぶ子どもたち、観光客の楽しんでいる様子が描かれています。中には太極拳の踊りもありました。楽しいお祭りの雰囲気が出ています。説明があればよく解ったと思いました。

3. 新野の盆踊り

河合源七郎 10分27秒

長野県下伊那郡阿南町新野に約500年前から伝わる盆踊りを取材されたもので、国重要民俗文化財に指定されています。毎年8月14日から16日の、それぞれの夜から翌朝にかけて、地域の人々が、楽器や伴奏を使わない古風な踊りを夜を徹して踊り、最後の17日の夜明けに鐘と太鼓を打ち流しながら精霊を送り出す行事です。踊りはゆっくりしたもので右手に扇を持つものと持たないものものがあり、先祖の霊を供養する夏の風物詩となっている。この日は雨模様で浴衣姿の子どもたちからお年寄りまでが輪になって雨に濡れながらも一生懸命に踊りを繰り広げているのが印象的でした。

4. コソヴォを訪ねる

華岡 汪 8分24秒

バルカン半島の内陸部に位置する Kosovo 共和国を訪ねられた作品です。国民のほとんどがアルバニア人の住民で、ほとんどがイスラム教で、Kosovo 紛争の影響を受けた町並みを拝見しました。

5. 雨中の山陰特急

前田茂夫 9分10秒

1970年前後に製造された381系は、クリーム色にえんじ色のラインの入った旧国鉄色の車体で親しまれてきたが、後輩の289系に変わるためにラストランを迎えた。作者は、雨の降りしきる中、最後の雄姿をカメラに収めようと撮影にでかけられた。

両車両を対比させて撮影されていて、新車両の白色のデザインがシンプル過ぎて旧車両の懐かしさをしのいでいました。雨中の撮影のため、カメラに当たる雨音をどう処理するか話題になりました。

6. 春になったよ！

有村 博 5分45秒

今年の3月の終わりに、大阪城で撮影されたものです。桜の咲き始めで綺麗に映されていますが、春霞がかかって、桜と天気はうまくいかないものですと作者の弁。でも、しっとりとした春の風情がでていました。もう少し桜が満開の方が良かったかもですね。現地音が入っていたほうがよいか、消したほうがよいか話題になりました。

7. 島原太夫道中

森口吉正 9分15秒

今年、10月6日、京都東山、高台寺の境内で北の政所ねねの茶会が行われていて、島原太夫の道中があると撮影にでかけられたものです。

島原は京都市下京区に位置する花街

の名称で、現在は花街組合から脱退して輪違屋だけが茶屋営業しているところだそうです。源光庵から常照寺への太夫道中を撮影されたものです。絢爛豪華な衣装に身をつつんでお花魁道中をカメラがとらえています。

往時は栄えた花街も衰退し古色は残るものの寂れた状態となっていて太夫道中がかろうじて続けられているそうです。日本の伝統文化の一端を拝見しました。これからも守りつづけていってほしいものです。

8. 嵐響夜舟（らんきょうやふね）

高瀬辰雄 6分50秒

仲秋の名月の頃、京都嵐山の大堰川に浮かべた船の上から月を眺めるイベントです。嵐狭に二胡や横笛の音色が響きわたる中、船上や川辺から楽しんでいる映像が画面を飾ります。また、鶺鴒の模様をうまく組み合わせて雰囲気が出ました。初秋の夜のなんともムードある映像を楽しませていただきました。一度行ってみたいと思いました。

9. 御堂筋 Watch

坪井仁志 5分18秒

晩秋の御堂筋でしょうか。あるクラブの撮影会上位作品だそうです。御堂筋の情景をテンポよくコンパクトにまとめられました。都会の中で時間が気になる社会をうまく表現された作品になりました。晩秋から暮れ行く季節(とき)と街行く人々中にもモニュメントとの調和が印象に残りました。

10. 青森ねぶた祭り

赤澤興三郎 7分00秒

この祭りは、国の重要無形民俗文化財

に指定された歴史ある祭りです。短日で撮影に行かれたようで、編集に苦労されたようです。「もうちょっとなにかがほしい。変化がほしい」などの意見がでました。次の機会に撮り足してまとめられれば良い作品ができると思いました。

10月第2例会のレポート

10月の第2例会は15日の午後1時より第4研修室で開催しました。最初、関さんによる「音入れの研究会」が行われ、その後作品が上映されました。司会、合原さん、書記有村さん、デッキ係に進藤さん、江村さん、受付兼照明係を宮崎さん、華岡さんの担当で進行しました。

◆出席者：有村、植村、江村、蟹江、紙本、合原、柴辻、進藤、関、高瀬、坪井、野田、華岡、前田、宮崎、森口、山本、(敬称略)の17人と見学者1人、作品本数は7本でした。

■第1部 作品研究会の部

今月の作品研究会では関世話役がパソコン一式とモニター2台を持ち込み音の編集実演を行いました。BGMの出し方、切り方、SEの使い方、SEとSEのミックス方法等を具体的に解説された。BGMの切り方は、スネークアウト(長めの時間で音を徐々に小さくする)がよいであろう。音のない「無音の世界」も効果音の一つとして有効に使って欲しい。音楽べったりという作品はダレるので、BGM、SE、無音及びナレーションの箇所を効果的に使って欲しいとのアドバイスでした。テキスト資料には、選曲について音楽のジャンルで選ぶ、演奏者で選ぶ、BGMにマッチする演奏家など、具体的に詳説されました。音に悩む多くの会員に

とって勉強になつと思われます。

◆上映作品(今月の記録と講評担当：有村世話役です)

1) 箕面まつり (BD)

江村一郎さん 6分20秒

2013年夏に行われた箕面市民のお祭を取材されました。楽隊を先頭に色々な団体が演技を交えながら楽しそうに行進してゆきます。この様な行進物を作品にするのは以外と難しいものですが、さすが「よさこい」で日頃鍛えた江村さんの事ですから、独特のアップを交え、観客の姿も描き乍ら、頃良いカットの積み重ねで作品にしておられます。行進物のお手本のような作品で楽しく拝見しました。

2) 氷結の華(BD)

有村 博さん 4分14秒

4:3の画面の映像を16:9で如何にして表現するか、といった実験作品の3作目です。画面がハイビジョンになって既に10年は経過していますので、今回は16:9の映像を含めて作ってみました。その昔、アイゼンやスノーシューを履いて撮った映像を再度利用してみたくて、の実験ですのでこれで終わりです。ゴメンナサイ。

3) 新潟長岡大花火(BD)

蟹江利一さん 9分30秒

日本三大花火大会の一つと言われる「長岡まつり花火大会」にこの8月に行かれて取材されました。夜暗くなると観客の姿が撮

れないので最初に描かれ、その中には蟹江さんご夫妻のお姿もありました。さてこの映像、総てオートで撮られたそうですが、たとえマニュアルで撮影したとしても花火の撮影は難しいものようです。カメラは映像がマニュアルになってもマイクが大きな音を自動的に制御するので、あの現場での地響きのする様な迫力はビデオでは中々表現出来ないようです。楽しい作品でした。

4) 泉北の秋祭(BD)

山本正夢さん 10分30秒

いつも一人で海外へ行かれて珍しい映像を拝見する山本さん、今回はお住まいの近くの祭を見せて頂きました。総体的には岸和田のダンジリによく似た山車が出てきますが、堺独特の風習などを的確な撮影リズムで表現し、屋根上の大工方や引き手のスローショットなど、夜景を交えて見事な作品に仕上げられています。楽しく拝見しました。

5) マンホール紀行 No4(BD)

紙本 勝さん 13分20秒

このシリーズも4作目、今回は近畿、中国地方で近場で分かり易い町が出てきます。府県にして奈良、大阪、和歌山など9カ所、よくこんなに沢山の場所に行かれて撮影されたものと第1回目から思っていたのですが、今回も同様感心しました。私は現役の頃には仕事の関係で毎月旅行していて、今回の地区は殆ど訪問した事のある土地でしたので特に感慨深く拝見出来ました。有り難うございました。

6) 京町屋(BD)

高瀬辰雄さん 2分55秒

古くから伝わる京都の町屋を写真と動画で表現するコンテストが京都市の主催で行われるそうで、制限時間3分以内で作られました。感想をと言われるので、私は京都の町屋は狭い間口の家の玄関を開けると細長い庭が奥の方まで伸びてその奥に家の中に入る玄関がある、と言った感じで承知していたので、申し上げたのですが、京都にお住まいの高瀬さんの方が的確な表現をされると思いますので、思われる様に作成されて、是非最高賞を獲得される様にお祈りしております。

7) 生本番(BD)

柴辻英一さん 8分00秒

テレビ岸和田のスタジオらしき所で大勢のスタッフが生放送番組を制作しています。その緊迫した場所を撮影して来られました。柴辻さんでないと絶対に撮れない映像でしょう。ただ、タイトルの生本番というのが恐らく業界用語でしょうが私には判りませんでしたので、ネットや辞書、業界用語集など調べましたが不明でした。この貴重な映像でどんな作品が出来あがったのか？を見てみたいと思いました。

これで上映を終わり散会しました。